ルーテル

藤が丘だより

発行　月報委員会
発行日　2024年6月2日　No. 121

すると、一同は聖霊に満たされ、"霊"が語らせるままに、
ほかの国々の言葉で話しだした。

使徒言行録　2章4節　・　新共同訳

わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

行って、あなたも同じようにしなさい。
ルカによる福音書 10章 37節

ルター派キリスト教会　日本福音ルーテル藤が丘教会　牧師　佐藤和宏
〒227-0043　横浜市青葉区藤が丘 2-31-21　tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:https://www.jelc-fujigaoka.org/ mailto: fujigaoka@jelc.or.jp

シリーズ説教

「こうして生きる」　　佐藤和宏牧師

ヨハネによる福音書 15 章 26-27 節、16 章 4b-15 節

徳善義和先生がルターの「キリスト者の自由」について書いた、著書「自由と愛に生きる」の中で、ルターが理解したことについて次のように書いています。「人間はキリスト者であるのではなく、キリスト者となるのである。人間がキリスト者であることは、自明の、自然の成り行きではなく、人間が自ら到達し、その状態を当然のこととして持続できるのではない。キリストのゆえに、キリスト者とされるという意味で、キリスト者となるのである」。

第一に人がキリスト者、つまりクリスチャンであるということは、洗礼を受けた時から自動的にクリスチャンであり続けるのではないということです。繰り返してクリスチャンとなっていく。繰り返して、新しくキリストによってクリスチャンとされていくのです。

第二に人間についても、これと同じであると言えるでしょう。人が生きるという場合、それはキリストのゆえに、命を与えられているという意味で、人は生きるのです。

第三にこれらのことは、私たち教会についても、同じように言えるでしょう。それは私たちがいるから教会があるのではなく、私たちの集まりはキリストにあって、繰り返し教会とされていくのだということです。すべてがそこに集まる私たちにではなく、キリストを理由とする。こうして私たちは教会とされていくのです。ですから神が望まれていることを、私たちが果たそうとしているかどうか。この問いの前に立たされ、私たち教会は繰り返して教会とされていくにちがいないのです。教会に望まれている使命、それは私たちが毎年の総会において、その年の宣教計画を提示するにあたって、確認していますように「伝道と教育と奉仕とによって、神に仕える」ことにあるのです。この使命を思い起こし、用いられていく。こうして私たちは、今日も教会とされて生き始めるのです。

創世記 2 章に、次のようにありました。「主なる神は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」。「息」と訳されている言葉はそのほかに、「霊」「風」という意味を持っています。「霊」を当てはめてみると、今日の聖霊降臨の場面と、人の創造の場面とが重なるのをみるのです。人の創造の場面で重要なことは、「形作られた」という見える形ではなく、神が命の息を吹き入れてくださった。この目に見えない神の恵みの御業によって、人は生きるようになったというのです。

このことは私たち教会についても、言えるのです。私たち人間がそれぞれの努力によって、キリスト者になるのではなく、神がキリストによって、繰り返して私たちをキリスト者とされるということです。私たちが価値があるから生きるのではなく、神が私たちを憐れみ、キリストにあって、生かしてくださるということです。キリストのゆえに一つに集められた私たち、違いを抱えたままの私たちに霊が注がれるから、今日も新しく教会の群れとして生まれるのです。ペンテコステは教会の誕生日と言われるのですが、実は礼拝のたびに、私たち教会は新たに生まれているのであり、礼拝の時こそが、私たちの誕生日と言えるのです。今この礼拝において、新たに聖霊をいただいて、新たに教会の群れとされた私たちは、すべての人々に仕える教会として、日々の生活の場へと遣わされてまいりましょう。（聖霊降臨）

●○瀬啓○さん、長谷○（○瀬）○美さんを囲む会　　江○○子

５月 26 日、礼拝終了後に○瀬先生、○美さんによる講演会がありました。

皆様もよくご存知の小説家、遠藤周作さんの作品を涙を流して読んだり感銘を受けて、キリスト教徒への一歩を踏み出された方々もいらっしゃると思います。

今回は遠藤周作さん「深い河をめぐる」というテ～マで始まりました。

お二人の説明は大変わかりやすく、また、今まで知ることすらなかった遠藤周作さんという小説家、一人の人間、キリスト者としての姿を垣間見たように思えます。

「深い河創作日記」の抜粋箇所でのヒック氏『宗教多元主義』という言葉がとても印象深く、深い河にでてくる大津という登場人物、神父でありながら、息も絶え絶えになりながらガンジス河にたどり着き、死んでしまった人々を探し、ガンジス河で火葬するという箇所は、この世には色々な宗教があり、相手を否定せずに、相手をそのまま認めるという事と繋がっていると思いました。

Duckrabbit の絵（下図）を使っての説明もなるほどで、兎にもアヒルにも見える見方には深い意味と同時に、大切な事も含まれていることがわかりました。

たくさんの資料作成をして頂き、パワーポイントでの写真も使っての講演会は心温まる交わりの時となりました。お忙しい中、○瀬先生、○美さんには心より感謝申し上げます。

●女性会だより

5 月 19 日　　13 名出席
　司会、祈り　〇井姉　　讃美歌 476 番
　1　聖書の学び
　　マタイによる福音書　10 章 1 節
　　遣わされる→イエスの御業をより広く、伝えるために弟子達を遣わされた。
　　機械化された中、機械化だけでは済ませられないこともある。例えば AI の活用→人のように血のかよった事はできない。人と人とのかかわりは機械では超えられない。
　　患い→弱さと言う言葉にあたる。
　　イエスが出向いて、血のかよった交わりをして、癒される人のぬくもりを感じ、また、弱さを感じ取り、寄り添って下さる。
　2　女性会例会
　　あり方検討委員会について
　　藤が丘教会女性会の方向性についての意見交換
　　東教区女性会、連盟に対しての要望及び意見
　　6 月 7 日、8 日第２６回連盟総大会について

次回例会は 6 月 16 日

●牧師室より

4 月より、小田原教会の主管牧師として、兼任をしています。6 月より牧会委嘱の長岡立一郎先生が着任されましたが、それまでの 5 月末までの週報に「牧師コラム」と題して、短い文章を依頼されましたので、担当いたしました。その中で、私なりのルーテル教会観を、おおよそ次の点にしぼって書かせていただきました。1）ルーテル教会は一つの教会であること。2）ルーテル教会では、教会について「全信徒の集まり」と理解していること。（「教会」は人であるということ）3）各々教会は、主の道の「同行者」（シノッド／ルカ 2 章 44 節では「道連れ」）であること。4）それぞれが「違う」ことを大切にされるべきこと。教会は自分たちのことだけではなく、「同行者」として、相手を思うことが大切であるということです。牧師不足が現実となり、協力が欠かせません。違いを知り、祈り合ってまいりましょう。私たちは地域に仕える教会としても、歩んでまいりましょう。

また教会内への配慮も必要です。教会として、皆さんのところに赴き、礼拝（聖餐式）をともに出来ればと思っています。ご希望の方は遠慮なくお申し出ください。（佐藤）

今月、受洗記念日を迎えた方々

2 日　〇山〇子姉
3 日　田〇〇子姉、〇田喜〇兄
6 日　田〇〇夫兄、森〇〇子姉、
　　武〇〇子姉

おめでとうございます。

わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう
「行って、あなたも同じようにしなさい。」
ルカによる福音書10章37節
●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから

☜スマートフォンで、こちらの QR コードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。